区対抗の部 宮原区が優勝飾る

市民スポーツ祭卓球大会

第38回富士宮市民スポーツ祭卓球大会（市・市教委主催、富士宮卓球連盟主管）区対抗の部は11日、市民体育館で開かれた。

12チームが4組のリーグ戦に続いて決勝トーナメントを展開、宮原区が決勝で青木区を破って優勝に輝いた。

上位成績は次のとおり。

▽優勝＝宮原区
▽準優勝＝青木区
▽3位＝大岩3区A、野中1区
▽ベスト8＝黒田区B、大岩3区B、小泉四区、黒田区A。

区対抗の熱戦を展開

市民スポーツ祭サッカー「父親・母親の部」21チームが熱戦展開

富士宮市民スポーツ祭サッカー「父親・母親の部」は11日、4日の予選リーグに続いて外神スポーツ広場で開かれ、決勝トーナメントで参加21チームが熱戦を展開した。

父親の部には、富士宮東の2チームのほか11チームが参加、母親の部には富士根南の2チームのほか10チームが参加、5人制のミニサッカー球技規則に従って前後半各10分の試合で競った。

子どもがサッカーに親しみ家族でサッカーを楽しむ父親や母親も数多く、懸命のプレーでゴールを目指してボールを追って走り、足を振りぬいてシュートを打ちこみ得点を競い合った。

5人制ミニサッカー球技規則に従って前後半各10分の試合で競った

なくなった方

清孝太郎（69）阿幸地町350番地

商店街活性化を願い事務局前でサポーターの支援を受けて開催

毎週土曜の「れとろ楽市・新鮮野菜市」

＝富士宮高校会議所＝

富士山麓から情報発信

富士宮市内の5高校の生徒たちが連携して高校生の視点と行動力で地域振興や地方創生・商店街再生・地域ビジネスの手法について実践を通して学び、アイデアを発信している「富士宮高校会議所」は、事務局としている西町レトロ館で商店街活性化の一助にと毎週土曜日の午前中に新鮮野菜などを中心にした「れとろ楽市」を開いて人気を集めている。

5月からスタートした新鮮野菜を中心にした毎週土曜の午前9時から正午まで事務局前で開催の「れとろ楽市」では、富士宮地域の有機栽培農家など地元生産農家の「安全安心・新鮮美味しい野菜」を販売して人気を集めている。

10日の「れとろ楽市」では、高校生会議所活動の「まちづくり」アドバイザーも努め、サポーター役として支援を続けている望月英樹さんが販売サポーターとして忙しい高校生スタッフに代わって販売案内で訪れた人たちのサービスに努めた。

富士宮高校会議所では、18日に開催の「富士山世界遺産登録4周年記念祭・富士宮歩行者天国」へ連携開発特産品販売などで出展を予定している。

17日（土）には第3回例会で、近江八幡商業高校とGoogleHang outや「静岡県近江商人ゆかりの会」の中村一雄さんを招いた座談会で「近江と富士宮」について学ぶ。

新鮮野菜集めた「れとろ楽市」にはサポーターの市民も協力

ふじおろし

『厩戸皇子と聖徳太子』

◆聖徳太子の十七条憲法にある「和を以って貴しとなす」は、現在の憲法の根幹にも息づく精神であると同時に日本人の伝統的な道徳意識です。

文部科学省は先ごろ、次の学習指導要領の改正で聖徳太子を「厩戸皇子」と、鎖国を「幕府の海外政策」に改めるなどとした案を発表しました。

聖徳太子は、現存する日本最古の歴史書である『日本書紀』では「厩戸皇子」と呼ばれていたことが記してあり、聖徳太子を「厩戸皇子」と改めることは史料に基づくものではあるのですが、後に理想化して付けられた名前の「聖徳太子」で歴史を学んできた世代の者には受け止めがたい一面もあります。

◆『日本書紀』は、『古事記』の8年後の養老4年（720年）第44代元正天皇の時代に出来上がった全30巻の大著で第41代持統天皇までの事績をすべて漢文で書いてあります。編纂を命じたのは、『古事記』も『日本書紀』も天武天皇（第40代）で、日本で初めてとなる正史をつくるための国家事業を天武10年（681年）に立ち上げてスタートし、40年かけて編纂が進められ、最終的に天武の子の舎人親王によってまとめられました。神話を除いては年代を追って記述する編年体が用いられています。

聖徳太子（厩戸皇子）の歴史上の登場は、欽明13年（552年）に百済の聖明王から金銅の仏像一体と経典が届いた『仏教伝来』後の「仏教受け入れ」で巻き起こった物部氏（排仏派）と蘇我氏（拝仏派）の対立からでした。

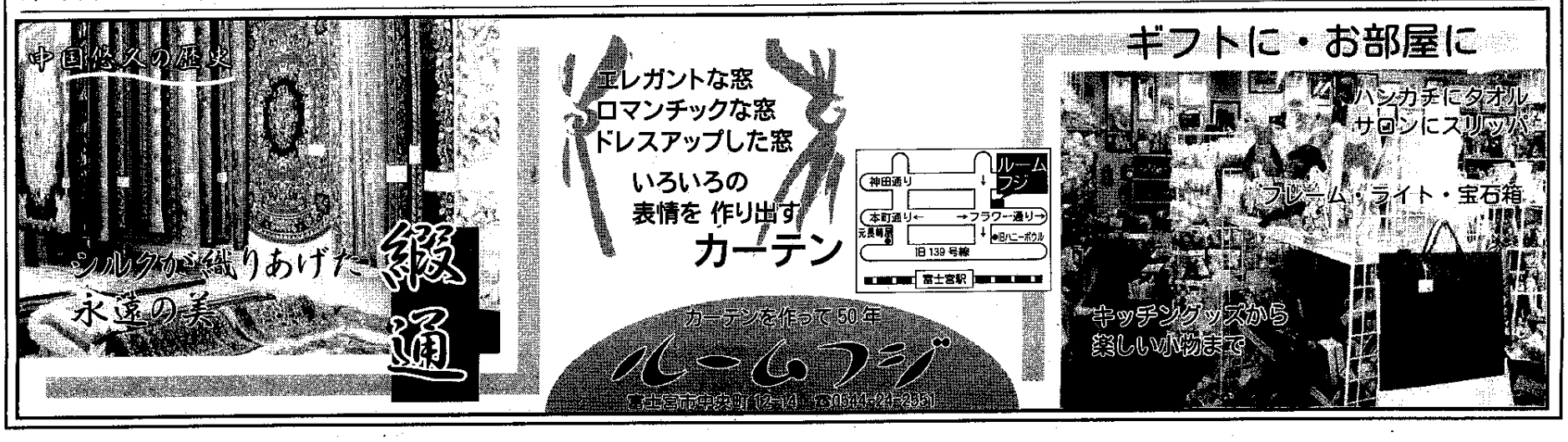
物部氏と蘇我氏の戦で、厩戸皇子は霊木で仏教の守護神四天王像をつくり、「もし戦に勝たせてくれたならば四天王のために寺を建てましょう」と仏に誓いを立て、蘇我馬子も寺の建立を勝利祈願で行い、戦に勝ち物部氏を崩壊させると、厩戸皇子は加護に感謝して攝津（現大阪市四天王寺区）に四天王寺を建立、蘇我馬子も法興寺（現・飛鳥寺、奈良県明日香村）を建てました。この戦の後、正式に国の教えとなった仏教は普教に弾みがつきました。

独裁的権力を握った蘇我馬子は、初の女帝推古天皇を誕生させ、推古天皇は蘇我の血を引く厩戸皇子を摂政として政治を任せ、厩戸皇子は官僚制度の冠位十二階や十七条憲法の発布を行いました。聡明であった推古天皇は、仏教の定着化を図り、仏教の振興に努めた皇太子・厩戸皇子の治世と仏教を信奉した権力者・蘇我馬子との三頭政治で法隆寺などの仏教文化の華を咲かせました。推古天皇が即位した593年から約100年は飛鳥時代と呼ばれ、最も仏教が栄えた時代とされています。

◆しかし、厩戸皇子の子の山背大兄皇子は、敵対する蘇我入鹿によって殺害され、専横を極めた入鹿が中大兄皇子と中臣鎌足によって暗殺された乙巳の変、大化の改新後の壬申の乱の内乱と、皇位継承をめぐって皇位継承候補者の暗殺がたびたび起こっています。

「厩戸皇子」と改められてもこのような聖徳太子の事績が変わるものではありませんが、いずれにしても政変や皇位継承をめぐり暗殺が繰り返された謎を秘めた時代です。『日本書紀』や『古事記』を題材にして描かれた漫画や小説など多くのジャンルで再発見が続けられてもいて、中には天地創生から神武天皇誕生までを絵物語風に描いた本が10万部を越えるなど古代史ブームです。

さて「厩戸皇子」は誰のことでしょう？と問われて「聖徳太子」と答えられる人はどれだけいるでしょうか。

お誕生おめでとう

川口良行（74）宮原40
8番地の9
小野田勝（64）山本61
9番地の3
渡邊一司（71）矢立町
46番地の5
齋藤美智子（61）長貫1
244番地の6
諸星登代子（66）万野原
新田3320番地の20
小山武夫（69）万野原新
田3462番地の24
和田千温（一也）上井出
西原稀胡（生）舟久保町
三井涼太（俊彦）矢立町